

資料

平成24年度における生物同定試験の結果

中島 淳・石間妙子・須田隆一

当所で窓口依頼検査として行っている生物同定試験の平成24年度の結果について概要をまとめた。依頼件数は44件で、内容別にみると食品中異物が21件、家屋内発生が12件、事業所内が10件、皮膚搔痒が1件であった。依頼は6月が10件で最も多かった。種まで同定できたものは17種で、目レベルではハチ目をもっとも多く、ついでコウチュウ目、ハエ目の検出回数が多かった。

[キーワード：衛生害虫、ペストコントロール、食品中異物]

1 はじめに

当所では窓口依頼検査として生物同定試験を実施している。本試験は主に衛生害虫を対象として、持ち込まれた虫体について種の同定を行い、その結果について成績書の発行を行うものである。本報では平成24年度における生物同定試験結果をまとめ、その傾向について考察を行った。

2 検査の方法

持ち込まれた検体は発生状況についての聞き取りを行い、その経緯から皮膚搔痒（皮膚搔痒症原因ダニ類の検査）、食品中異物（食品中から発見されたもの）、事業所内（工場や会社事務所等で発見されたもの）、家屋内発生（一般住居から発見されたもの）、その他（研究機関依頼、由来不明など）の5つに区分して記録した。

持ち込まれた検体のうち、室内塵中の皮膚搔痒原因ダニ類の検査として持ち込まれた検体（室内塵）については、室内塵を篩別後、2.0-0.074 mmの室内塵を対象にダーリング液懸濁遠沈法¹⁾を用いて抽出し、実体顕微鏡を用いて直接鏡検、もしくはプレパラート標本にした後に生物顕微鏡で鏡検して同定した。

また、皮膚搔痒以外の検体については実体顕微鏡下で直接調べ同定した。このうち乾燥している検体は、10%水酸化カリウム溶液に数時間浸潤し、軟化させた後に検鏡した。また、粘着テープ類などに付着していた検体は、2-プロパノール液に24時間程度浸潤して粘着物を剥がした後に検鏡した。

3 結果及び考察

平成24年度における生物同定検査の依頼件数は全44件で検出数は55分類群であった。過去20年間の依頼件数は概ね年間40-70件程度であり^{2, 3)}、例年と比較して件数

について特に大きな変化はみられない。

44件についての依頼理由の内訳を図1に示す。食品中異物をもっとも多く、全体の47%にあたる21件であった。平成23年度までの当検査結果においても、近年における食品中異物を由来とする検査依頼の増加が指摘されており³⁾、本年度も同様の傾向であるといえる。また、平成24年度は皮膚搔痒を原因とするダニ類検査は1件のみであった。

図2に月別の依頼件数と内訳の推移を示す。依頼は6月にもっとも多く、次いで5月、8月の順に多かった。また、12月から4月にかけては0から2件と少なかった。

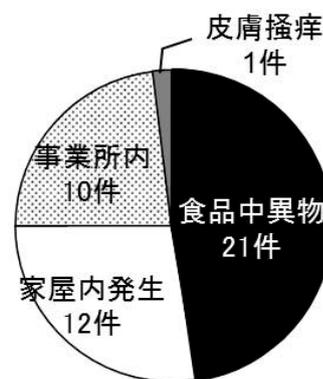


図1 平成24年度における生物同定検査の依頼理由

表1に検出した虫体の種数を目レベルで各月ごとに示す。分類群としてはハチ目をもっとも多く、次いでコウチュウ目、ハエ目が多かった。ハチ目ではアリ科が7検体と多く持ち込まれており（アミメアリ、ヒメアリ、ケアリ属の一種、シリアゲアリ属の一種、ヤマアリ亜科の一種）、その由来は食品中異物が4件、家屋内発生が3件となっていた。

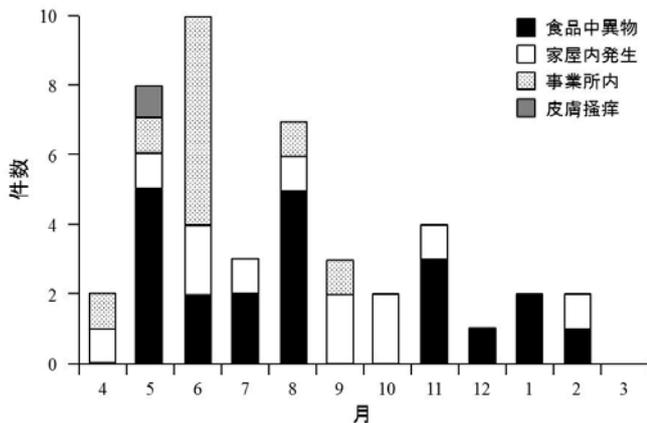


図2 平成24年度における月別の依頼件数と内訳

表1 各月における各目の検出数

目	月												計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
ハチ	1	3	9	1			1	1			1		17
コウチュウ	1	3	4		3	1						1	13
ハエ			4		2		1	1	1	1			10
チョウ			1		1			1					3
カメムシ		1				1		1					3
ダニ		1	1										2
チャタテムシ					1	1							2
有肺											1		1
ワラジムシ				1									1
シロアリ				1									1
ゴキブリ						1							1
計	2	8	19	3	8	3	2	4	1	2	2	0	54

持ち込まれた検体のうち種まで同定できたのは17種であった(表2)。イエシロアリ、スジマダラメイガ、タバコ

表2 種まで同定できた17種と出現状況

目	種名	検体の出現状況
ハチ	クロアリガタバチ	事業所内(木工品から発生)
コウチュウ	ケヤキヒラタキクイムシ	家屋内発生(木工品から発生)
ハチ	アミメアリ	食品中異物(チマキ)
コウチュウ	ハウカクムネヒラタムシ	食品中異物(乾燥シイタケ)
ダニ	コナヒョウヒダニ	皮膚掻痒(居室内)
コウチュウ	ヒメカツオブシムシ	家屋内発生(居室内)
コウチュウ	タバコシバンムシ	家屋内発生(畳から発生)
コウチュウ	アカマダラケシキスイ	事業所内(食品工場)
シロアリ	イエシロアリ	家屋内発生(居室内)
ゴキブリ	モリチャバネゴキブリ	食品中異物(詳細不明)
コウチュウ	コクストモドキ	家屋内発生(居室内)
コウチュウ	カツシチャタテ	家屋内発生(居室内)
コウチュウ	タバコシバンムシ	事業所内(医療機関)
コウチュウ	オオナガシクイ	家屋内発生(木工品から発生)
チョウ	スジマダラメイガ	家屋内発生(居室内)
有肺	ウスカワマイマイ	食品中異物(サラダ)
ハチ	ヒメアリ	家屋内発生(居室内)

シバンムシ、クロアリガタバチなど古い時代から問題視されている家屋内害虫が継続して一定の問題を起こしていることがわかる。

また、木材を食害するケヤキヒラタキクイムシとオオナガシクイも1件ずつあり、この他に種まで同定できなかったもののムナクボカミキリ属の一種が木工製品から発生したものとして持ち込まれた。

文献

- 1) 宮本 旬子, 大内 忠行: 新築家屋, 一般家屋での室内塵ダニ類の季節変動について, 衛生動物, 27, 251-259, 1976.
- 2) 緒方 健, 山崎正敏, 杉 泰昭: 生物同定試験検査結果(平成13年分), 福岡県保健環境研究所年報, 29, 154-159, 2002.
- 3) 中島 淳, 緒方 健, 中村 朋史, 須田 隆一: 過去10年間(平成14-23年度)における生物同定試験検査結果, 福岡県保健環境研究所年報, 39, 113-114, 2012.